



なかい まさつぐ
1945年奈良県生まれ。中学卒業後、丁稚奉公に出る。73年大阪・ミナミにお好み焼き店「千房」を開店。86年大阪府立桃谷高等学校を卒業。現在、国内外に64店舗を展開する「千房」は、年商55億円、従業員824名、本社・大阪市浪速区。
● <http://www.chibo.com/>

と自負しております。ですが、それだけに「裸の王様」になりやすい。自分という存在を絶対視してしまう危険は、創業者につきものです。

ですから、私は自戒の意味も込めて経営陣に大ベテランを据えています。ことし七五歳になる財務のプロで、千房にとってよくないと判断することがあれば「社長、それはダメです」と平気で言い放つ硬骨漢です。彼のアドバイスに耳を傾けて「よかつた」と思ったことが、これまでどれだけあったか。私は、この人生の先輩を心から尊敬しています。

それは、彼が常に「千房のため」という

スタンスで発言するからです。彼が、私に負けないくらい千房を愛してくれているからです。

真剣であればあるほど 意見は対立します

もちろん、人間関係にすきま風が吹き、気持ちバラバラになってしまった組織に発展はありません。社長のリーダーシップでいったん経営方針が固まったら、以後は一丸となって目標達成に向けて力を合わせるのが強い組織です。

ただし、それはあくまで社長の決断後の理想像で、最初から反対意見が出ず、何の議論も巻き起こらないの

のことを真剣に考えていないだけです。真剣に考えれば考えるほど、意見は対立するものなのです。

ですから、私は議論百出し、侃々諤々、喧々囂々であればあるほど、うれしくて仕方ありません。千房に対する従業員の気持ちを確認できるからです。逆に、全会一致で唯々諾々、粛々と何かが決まるようだと、どこか心許なく感じます。経営者にとって、イエスマンほど恐ろしい存在はないのです。

よくいわれることですが、組織を活性化させるのは次の「三者」です。一つは「若者」。既存のプロトコルを知らない人ですね。そして、「よそ者」。発想の異なる人間です。さらに、「愚者」。常識が通じない「ばか者」です。

その三者は、いずれも組織にとっては異物であり、それゆえにこそ組織を刺激します。彼らの参入によって、「事なかれ」が成立しなくなるわけです。

貴社にとって、金融機関から転じてきた弟さんは「よそ者」です。同時に、亡き先代の思いを社長とともに分かち合える貴重な同志でもある。Mさん、どうか弟さんを大切にしてください。

それは一人ひとりが自社

*中井社長への相談を受け付けています。ご希望の方は、相談内容をまとめた封書を編集部宛お送りください。

Q 専務の弟と意見が対立します

【相談】 専務である弟(36歳)との意見の対立が、社内に悪影響を及ぼしそうで心配です。二年前、先代である父が急逝したとき、私の補佐役を期待して金融機関に勤めていた弟を入社させたのですが、財務の専門家という自負が強く、私が進める設備投資に反対しています。兄弟だけに説得が難しく、困っています。

● 工作機械製造業
Mさん 38歳 / 男性
創業 1972年
年商 12億円
従業員 180名
本社 大阪府大東市

A どんどん対立して 議論しましょう

社長であるMさんには、ぜひ知っておいていただきたいことがあります。人を動かすのは「何を」言うかではなく、「誰が」言うか次第だという事実です。

たとえば、奥さんに禁酒を勧められても

小言としか受け取らない男性は少なくないでしょう。「仕事で疲れてるんやから、酒くらい好きに飲ませてくれ」と言いたくなるところです。ところが、それを医者に言われて平気でいられる人は、相当な豪傑か

恐ろしく鈍感な人です。同じ言葉でも、それを口にする人によって受け取られ方は天と地ほどに違うのです。

Mさんの場合、設備投資への反対意見を素直に受け入れがたく感じているのは、それが弟さんの発言だからではないですか。もし、メインバンクの支店長から言われたとしても、同じ反発を感じるでしょうか。信頼すべき先輩経営者の反対だったとしたら、どうでしょう。

まず、そのところを冷静に、真摯に自問していただきたいと思います。

私にご相談をいただくくらいですから、この件のほかにも弟さんとは意見の対立があるのかもしれない。でも、それでMさんが困る必要は何もありません。むしろ、歓迎すべきことではありませんか。社長と対立してまで、貴社のためによかれと信じる意見を表明してくれる人がいるのです。私がMさんの立場なら、弟さんが強硬に反対すればするほど、にやにやしてしまいうでしょう。

私は創業者ですから、よくも悪くも千房とは不可分な関係にあります。私ほど千房を熟知する人間はいませんし、私ほど千房を愛し、千房の永続を願う人間はいない